

『当たり前じゃない日々』

福島県

須賀川市立第二中学校 三年

鈴木 花凜 すずき かりん

私は、中学校で「命の大切さを学ぶ授業」を受講しました。そこでは被害にあわれた方の気持ちや犯罪がどれだけの影響を及ぼすものなのかを深く感じる事ができました。その中で私は実際の被害者遺族の方のお話が心に残りました。その方は娘を亡くし、生きる希望を失っていました。自分は何も悪くないのに自ら自分自身を責めている姿が聞いていても苦しかったです。その方は「叶うのなら、自分と引き換えに娘をもう一度生かしてあげたい。もう一度あのいつてきますを聞きたい。」と話していました。私はその言葉を聞いて、命の重みを感じると共に自分も同じ立場になる可能性があると思うと恐ろしくなりました。今、家族や友達と過ごしている当たり前の日々は当たり前ではないのだと気づかされました。そして今周りの人と過ごしている幸せな時間を一分一秒も無駄にせず、感謝を持って生きていこうと思いました。この講演で被害者の方の気持ちを自分なりに考え、私が最終的に大切だと思ったのは当たり前前に感謝して生活することです。

被害者遺族の方は、自分の大切な人が被害にあったという報告を受けるまで今の生活をどう思いながら過ごしていたでしょうか。きっと今の代わりばえのない生活について特に何か思うこともなく過ごしていたと思います。それは毎日が当たり前だと思っていて、当たり前のように明日が訪れると思っていたからです。でも、当たり前だと思っていた日々の中で突然被害にあったという報告が来ます。そこでようやく今までの日々がもう戻ることはないこと、当たり前ではなかったことを知るのでした。もういくら後悔したとしても、被害にあった大切な人との時間は巻き戻せません。そして大切な人がいなくなった生活の中で思うのです。もう一度あの笑顔が見たい、もう一度ごはんをいっしょに食べたい、もう一度声が聞きたい、と。自分がその立場になって考えてみると今いっしょに何気ない会話ができること、いつも隣に大切な人がいてくれることは何にも代えることができないかけがえのない時間です。そんなかけがえのない時間を共に過ごしてくれる大切な人に私は感謝して、あたたかい気持ちで接していきたいと思っています。

大切な命を守り、新たな被害者を生まず、誰もが安心して暮らせる社会を実現するのはみんなが想像しているより何倍も難しく、今すぐに実現できることではありません。でも、もし自分の周りに被害者になった人がいたら他人事だと思わずに悲しみに寄り添ってあげてください。そうすることでその人の気持ちが少しずつ晴れていくかもしれません。この被害者に寄り添う優しい気持ちが世界に広がり、今よりもっと被害者に優しく、誰もが安心して暮らせる社会に近づくことを心から願っています。